

高橋 Tai 対談
今月のゲスト



いとうまい子さん・女優

より多くの人の健康長寿のために
予防医学への意識向上に努めたい



80年代にアイドルとしてデビューし、その後は女優、最近はバラエティ番組などでも活躍しているいとうまい子さん。芸能活動の一方で、早稲田大学で予防医学を学び、ロコモ予防の支援ツールの開発も手がけ、現在も大学院で研究を続けている。高齢化が進むなかで、自分の健康を自分で守ることの大切さを訴えるいとうさんの思いを、国際医療福祉大学大学院教授の高橋泰氏が聞いた。

構成=石原順子 撮影=下山展弘

アイドルよりも
女優になりたかった

高橋 僕のいとうさんに対するイメージは、1980年代にテレビで観たカルピスソーダのCMでの初々しくて爽やかな印象です。僕を含め、当時の若い男性は、明るく愛らしい笑顔に魅了されました。どのような経緯でデビューされたのですか。

いとう 芸能界入りのきっかけはスカウトでした。でも、芸能事務所に入ってからデビューしたわけではなく、82年から『週刊少年マガジン』のグラビアオーディション企画として始まった「ミスマガジンコンテスト」で、初代グランプリをいただいたことから道が開けました。これを機に、歌手デビューやドラマ出演など、本格的な芸能活動をスタートさせました。

高橋 84年のテレビドラマ『不良少女と呼ばれて』のヒロイン役では大変話題になりました。僕はいとうさんのことを、誰からも愛されるかわいらしいアイドルというイメージで見えていましたから、『不良少女』のいとうさんを観たときはちょっとショックでした。僕の

知っているいとうさんではない……

という気がして(笑)。

いとう 私のことをアイドルとして応援して下さっていた方たちは、そう思われたかもしれませぬ。でも、あの頃、私は本当はアイドルではなく、女優になりたかったんです。当時はアイドル全盛期で、私は容貌もこんなふうな童顔ですし、アイドル路線で押し流されることになかなか抵抗できませんでした。そんな私の本音を知ったスタッフの方が、『不良少女と呼ばれて』のプロデューサーの電話番号を教えてくださいまして、カルピスソーダのCM撮影でハワイに帰った日、成田空港の公衆電話から自分で連絡しました。プロデューサーからは「アイドルのイメージを壊すことになるけれど大丈夫か」と聞かれましたが、アイドル路線を離れて、女優の道を進みたいと思

っていた私にとっては、むしろ望むところでした。女優としてやっっていくなら、こうした役を演じることは、将来きつとプラスになる

だろうと考えたのです。

高橋 そうでしたか。いとうさんご自身の性格は、万人から愛されるかわいらしいアイドルか、社会に背を向けて生きる不良少女か、どちらに近いと思われますか。

いとう どちらでもないですね。私は高校生のときは生徒会長もやっていて、先生からは「制服の着方が模範的で生徒手帳に載せたい」と評価されていたくらいなんです。本当に生真面目な学生でしたから、不良になるようなタイプではありませんでした。一方で、お人形さんのように扱われるのもいやでした。でも、『不良少女と呼ばれて』のヒロインができたことは本当に良かったと思っています。いまだに、いろんな方から、「テレビで観ていましたよ」とよく声をかけていただけます。ありがたいことだと思っています。

**支えてくれた人たちに
恩返しをしたい**

高橋 80年代以降、僕がいとうさ

いとう・まいこ ●愛知県名古屋出身。1982年、ミスマガジンコンテスト初代グランプリ受賞。83年「微熱カナ」でアイドル歌手としてデビュー。84年、テレビドラマ「不良少女と呼ばれて」のヒロインを演じて以降、女優としてさまざまなドラマや映画に出演。多忙ななか2011年には早稲田大学人間科学部に入学して予防医療やロボット工学などについて学ぶ。14年同大学卒業後、同大学大学院に進学。



